



好奇心を力に世界の本質を見抜く目を育もう

渡辺美代子 ((株)東芝 経営変革統括責任者)

仕事の内容とやりがい

大学を卒業してから20年以上、半導体の物性に関する研究をして来ました。最初は研究をすることに憧れながら、研究を継続できるよう必死でした。そのうち、研究の本当のおもしろさを知り、また好きで研究を仕事とする周りの人たちのひたむきさや真摯な人間性に触れ、そのような環境で仕事ができることに幸運を感じました。そして今は、自ら研究することはなく、世界の中で企業がいかに成長できるか、世界を牽引することができるのかを考えながら、会社全体のイノベーションを推進する仕事をしています。

仕事と生活のバランス

苦勞がないと言ったら嘘になりますが、夫は同じく物理の研究者で、家事は半々で分担していますので、自分だけが多く家事をするという状況はありませんでした。しかし、子供二人を育てる際には、子供たちと触れ合う時間を1秒でも多く持つことが大事であり、しっかりとした手作りの食事を家族と一緒にすることこそ大事という信念に従って、いかに仕事を効率よく短時間で質を上げるか、いつも考え努力しました。そして、今も悩みながら生活しています。

進路決定のきっかけ

高校物理の授業の実験において、自然現象の神秘さに触れた気になり、そのまま好きな物理の道に進みました。今思えば、他の分野ももっと勉強しておけばよかった、他の分野にはそれぞれのおもしろさがあるのだろうという気持ちもあります。しかし、こう思えるのも物理というしっかりとした学問を基礎にできたからであり、専門性を持ちながら広い視野を持つことが重要なのだと、最近では思うようになりました。

進路選択に対してのメッセージ

自分が今まで仕事を続けて来られたのは、自分が好きなことをしているという意識が強かったからだと思います。どんなに大変なことがあっても、自分が自ら選んだのだから、自分が好きでやっているのだから、と思うことで、困難も乗り越える元気は出てきます。また、多くの立派な成功者には必ず大きな失敗があります。若い方たちには、失敗や困難こそが成功に導いてくれると信じ、自ら困難に立ち向かい、たくさんの失敗を経験してほしいです。

海外留学・勤務を通じて得たこと・得したこと

海外には2回滞在しました。1回目は30歳の時、まだ子供はいませんでした。夫と一緒にカナダの大学に1年半、ポスドクとして研究をしました。2回目は子供が5歳と2歳の時、家族皆で英国の大学に2か月滞在しました。海外の生活では、日本では考えられない思考の自由があること、特に女性には大きな差があることを感じました。そして、何よりとても快適に過ごしました。広い世界を知ることで、自分自身による束縛から解放され、たくさんの大事なことや本質が見えて来ます。

海外留学・勤務を決めたきっかけについて

海外への憧れがあったのは確か、自分の知らない世界をこの目で見てみたい、この肌で感じてみたいという好奇心が強かったように思います。また、英語がほとんど話せない状況でありながら、あまり心配することもなく、行けばどうにかなるだろうという軽い気持ちが背中を押してくれたように感じています。若い皆さんには、科学を志す人が持つ好奇心を大切に、その好奇心を力に広い世界を知り、本質を見抜く目を育てていただきたいと思います。

海外の女性研究者の活躍と位置づけについて感じたこと

女性研究者が海外でどのように仕事をしながら生活しているのか、それも国と地域、また個人によってまちまちですが、日本ほど多くの人が苦勞している国は少ないように感じます。多くの優秀な女性が、日本から海外に行って活躍しているのも納得できることです。特に女性の活躍が目覚ましいのは、多様性を積極的に取り入れているところであるように思います。

滞在先の思い出・生活者としての体験

実際に海外で生活して感じたことは、想像以上に日本と違うこと、そして国や地域によって千差万別であること、それぞれの地域で皆自分たちの幸せを求めて生きていることを知りました。短期の出張も含め20か国に行きましたが、まだ南米とアフリカには一度も行ったことがありません。これから機会を見つけて是非行ってみたいと思っています。いくつになっても好奇心だけは持ち続けられる人でありたいです。



<渡辺美代子(わたなべみよこ)プロフィール>

東京理科大学理学部物理学科卒業後、東芝総合研究所研究員、カナダダルハウジー大学物理学科ポスドク、通産省アトムテクノロジー研究体研究員、英国パーミンガム大学ナノスケール物理研究所客員研究員。ここまで主として半導体物性の研究に従事。その後マネージャーとして、東芝研究開発センターグループ長、東芝経営監査部参事、東芝電力・社会システム社グループ長、東芝研究開発センター技術管理部長等を経て現職。応用物理学会フェロー、日本学会会議員。



カナダの大学でのポスドク時代、地元新聞に掲載